

祝 100号 果樹のせん定

リンゴ

成木のせん定

多すぎる側枝の間引きや先端の弱った側枝の切り戻し等により、樹冠内へ光が入りやすい円錐形樹形を維持します。強い側枝は巨大化して主幹を弱めるため好ましくないので、側枝は全体に引き下げて、先端を弱めてから切り戻すことが理想ですが切り取ることが出来ない場合は、花芽を多く残すことに配慮して中間部まで切り戻すようにします。

側枝は一定の間隔を保って配置しますが、多すぎる場合は間引きます。先端の弱った側枝は切り戻しや先刈りを行います。強めの側枝は先端を切らないようにします。

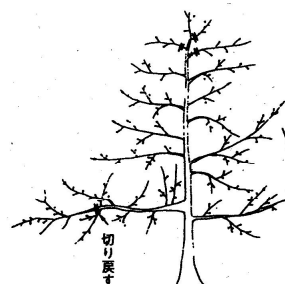
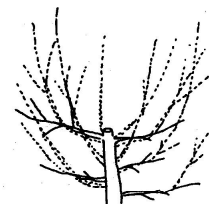
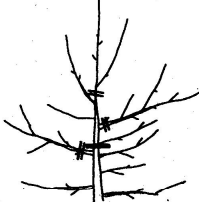


図22 側枝が長大化しすぎて間引きのむずかしいものの切り戻し
(切り戻すときはできるかぎり、花芽が残るようにしたい。)
成木のふじ/M26

図23 強い樹勢の頂部を強引に切り戻したときの伸長パターン
右図太線で切り戻すと、右図太線のような新梢が多発し、そのままにすると、下部に日かげを作る原因となりやすい。基本的には細二重線部を切る。



シナノスイート

結実が多くなると樹勢が弱まり回復が難しくなります。適正な樹勢の目安は、水平な結果枝の先端長が20cmです。これより短い場合は樹勢が弱いので充実した部分まで側枝の切戻しや切詰めを行います。

秋映

若木のうちは切戻しや先刈り、摘心などで側枝や結果枝の確保を図ります。枝は下垂しやすいですが、ここに着生する短果枝により果実がなるのであわてて切り上げず、基部に更新候補枝を育成しておきます。(図)

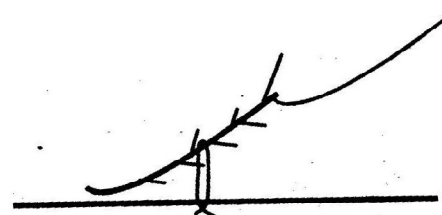
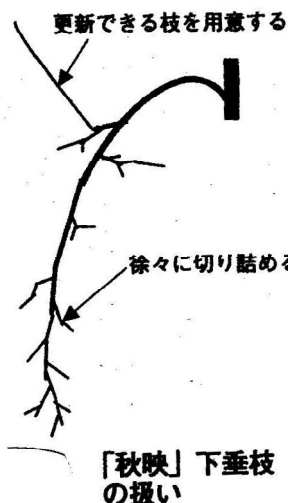
あまり樹形にこだわらず結果枝の確保と更新に心がけてください。

シナノゴールド

適当な樹勢は、他の品種より見た目が弱め、水平な結果枝が15cm程度で先端が花芽になっている状態が目安です。

これより強い場合は、間引きせん定し樹勢を落ち着かせ、ほとんど先端新梢が伸びなくなったら切り戻します。

誘引は春先に枝が柔らかくなってから斜め上向きに行います。(上記図)



側枝をやや上方に誘因
徒長枝の発生が少なく、中短果枝が多い
「シナノゴールド」の側枝の誘引方向

ブドウ

結果母枝の選び方と切り方

結果母枝は、登熟し節間の詰まった充実した枝を使います。枝の登熟は前年の結果量や新梢の伸長状態によっても異なるので、適正着果と摘心による登熟促進など新梢管理の徹底がせん定に影響してきます。幼木期には副梢を結果枝として利用することもあります。図21のように基部に残さないと先端が負け枝となってしまいます。結果母枝のせん定程度が新梢伸長に及ぼす影響は図12のようになり新梢の発生・伸長が異なってきます。したがって当年の新梢発生・伸長状態によって冬季のせん定が強かったか弱かったか判断できます。

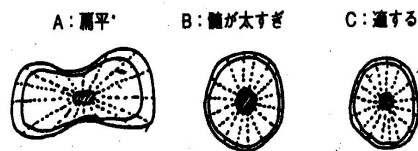


図11 新梢状態による充実度の把握
枝の断面が円形に近いB、Cの状態が良い。前年徒長した新梢はAのようになるので、充実が悪く、発芽不良や凍害にあいやすい。

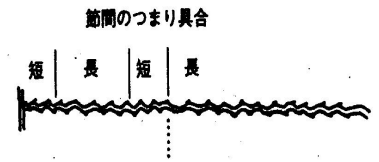


図9 新梢の発育状況とせん定位置の目安
節間がつまり、イナズマのような状態の結果母枝が望ましい。せん定の目安は充実がよければ点線で切る。(20~22芽)その他は充実に応じて短くする。

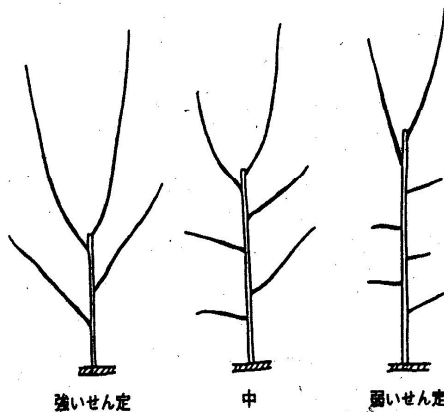


図12 結果母枝のせん定程度が新梢伸長に及ぼす影響

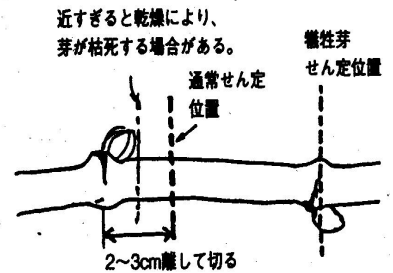
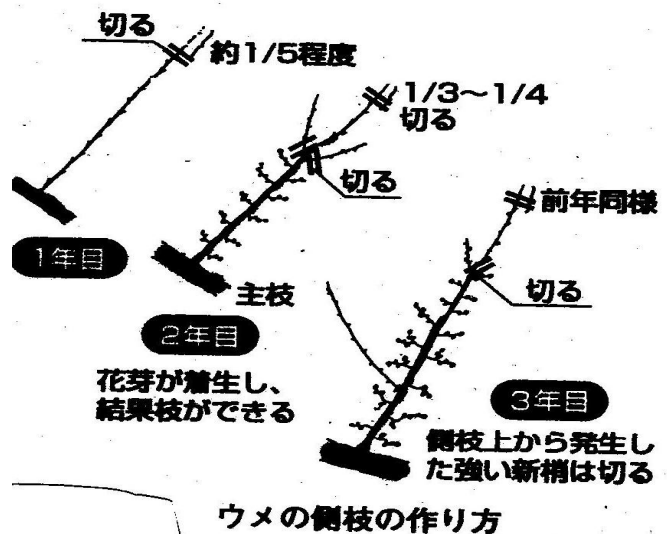


図10 結果母枝のせん定位置
節間の切る位置は残すべき芽の近くで無ければ図中の節間のどこでも良い。点線の位置は犠牲芽せん定と言われ、1芽を犠牲にして枯れ込みを少なくする方法である。

ウメ

ウメは日が当たらない枝（特に短果枝）が枯れますが、一方で日が当れば小枝が無かったところからも枝が吹いてきます。老木期など樹冠内部の枯れ込みがひどい場合、主幹の真上の枝をはずし日が内部まで入るようにすると樹冠内部に芽が吹くようになります。骨格枝の背面から発生した強い徒長枝は除去し、側面から出た枝を軽く先刈りして側枝に育成します。



ウメの側枝の作り方

カキ

カキの骨格枝は立ち上がりやすいので、若木では添え竹して樹を開かせ、すでに高木化してしまった成木は計画的に切り下げ低樹高化していきます。側枝は結果母枝をバランス良く配置し側枝主軸に近い位置になるように切り詰めます。15cm前後の充実したものに良い果実が着果します。

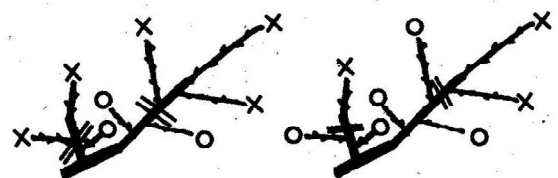


図3 カキの結果母枝の切りつめ(伊原原図)
樹勢に応じて切りつめ程度を加減する(Oが残す結果母枝)

(資料引用 果樹のせん定 長野県農業改良協会発行)